

年 組 名前：

**風林火山**

コロナ禍のちょっとしたいい話。ゴールデンウィークに家族旅行の予約をしたものの、感染拡大を受けて解約した旅館から、その温泉の入浴剤を同封した、おかみさんの手書きの手紙が届いた▼先日開かれた少年の主張大会で、最優秀賞となった山梨学院中3年の丹沢日南子さんが発表した。キャンセル客の健康を願う手紙に「温泉で温まることはできなかったけれど」「家族みんなの心がほっこり温かくなりました」▼スマホなどで瞬時にメッセージを送り合える時代だが、普段会えない友人と手紙の交換をしている丹沢さん。手書きの手紙に「相手のことを思う時間の温かさ」を感じるという▼戦後75年の今夏、戦時の手紙を巡る話題が幾つか本紙に載った。南アルプス市の藤巻進さん(80)は、戦死した父がフィリピン出征前夜に書いたとみられる、母宛ての手紙を大切に保管している▼藤巻さんら子どもが書かれ「体に無理して病氣などするな」と家族を気遣い、「では元気で行って参ります」「皆さんも御元気でさようなら」と締めくくられている。どんな思いでしたかためたろう▼まさに「相手を思う時間」が詰まった手紙だ。父の記憶はないが、初めて読んだ時「涙が止まらなかった」という藤巻さん。「孫世代に伝え、これからも語り継いでいってもらいたい」と話す。こうした手紙が代が替わっても大切にされ、戦禍の教訓が継承され続けることを願う。(吾)

(2020年08月25日付 山梨日日新聞 1面)

**問1**

手書きの手紙をテーマとした山梨日日新聞のコラム「風林火山」です。コラムを読んで感じたことを書いてください。

.....

.....

.....

.....

.....